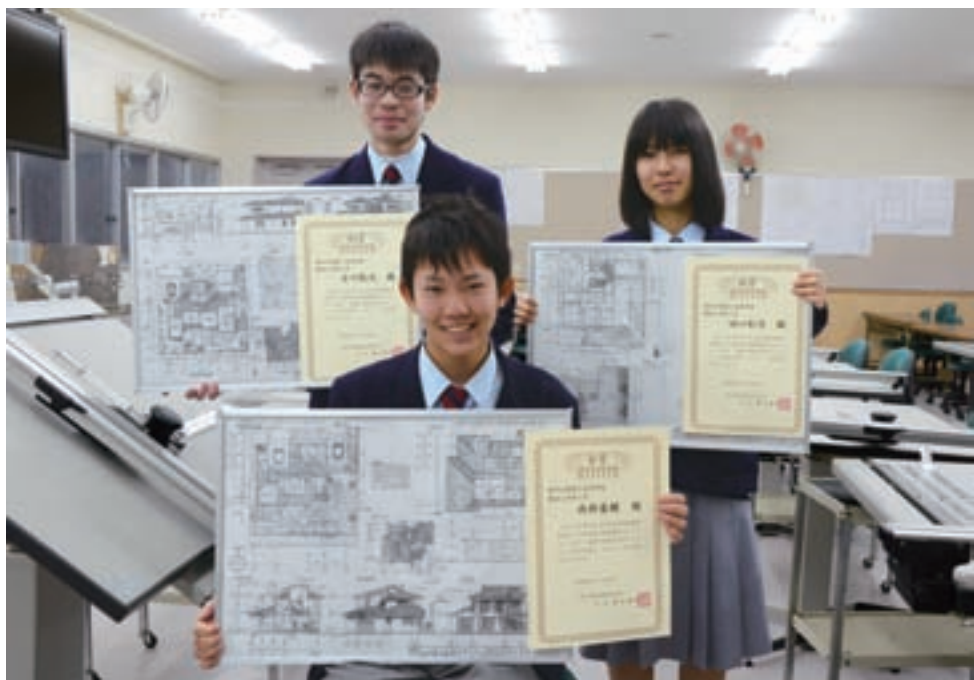


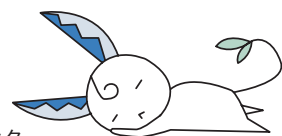
製図コンクール 関商工高生 金銀銅



第30回全国高校生建築製図コンクールで、関商工高校建設工学科の生徒3人が各部門で表彰を受けました。コンクールは、木造2階建専用住宅部門や平屋部門など、学年や出題内容によって分かれており、金、銀、銅賞が与えられるもので、今回手

書きの製図では最難度の課題3で、西部泰輔君(3年)が金賞、古川聡大君(3年)が銅賞に入賞し、課題2では田口彩乃さん(2年)が銀賞に選ばれました。なお、この作品は3月15日(木)まで、わかさ・プラザ学習情報館1階に展示されています。

あんな事、こんな事



関市イメージキャラクター
「関*はもみん」



母国のお菓子紹介します

ブラジルの食文化・家庭菓子作りについて学び、市内在住のブラジル人との交流を図ろうと、市国際交流協会が主催した「バレンタイン・ブラジルお菓子講座」が開かれました。参加者は練乳とココア、ココナッツを使った日本とはひと味違ったチョコレート菓子作りに挑戦。講師の指導で手順に従って、火加減に気をつけながら材料をかき混ぜたり、冷まして丸めたりと熱心に取り組み、和気あいあいと交流しました。

早く新しい体育館で遊びたい

旭ヶ丘小学校の体育館改築工事が3月下旬完成予定で進められていますが、新しい体育館がどのように作られていくのか工程を知ろうと、全校児童が工事現場を楽しく見学しました。地域に解放された体育館として以前よりも広く、多目的トイレやシャワー室なども備えていることなどの説明を聞きながら、児童らは着々と進められていく作業状況を興味深げに眺め「完成が楽しみ」と話していました。





札を見つけて猛ダッシュ

富野小学校で、恒例の手作りジャンボかるた大会があり、全校児童104人がグラウンドを駆け回って、かるた取りを楽しみました。句が読み上げられ、笛の合図で児童らは、直径30メートルの広い円の中で必死に目当ての札を探し出し、それに向かって一直線。「見つけたー」と歓声を上げながら、巨大なかるたを頭上に掲げて喜びました。このかるたは、25年も前から補修を重ねて使い続けています。

地域の環境美化に大きく貢献

旭ヶ丘小学校の児童らが平成18年度から取り組んでいるアルミ缶回収活動が、飲料メーカーなど業界6団体でつくる食品容器環境美化協会主催の環境美化教育優良校表彰の小学校部門の協会会長賞に選ばれ、代表児童が表彰状を受けました。回収や洗浄、圧縮などを児童が定期的に活動。継続した取り組みが、児童や保護者だけでなく、地域住民にもリサイクルに対する意識の向上が図られています。



小瀬鵜飼の「伝統」を学ぶ

一千有余年の歴史を持つ伝統漁法「小瀬鵜飼」を学ぼうと、地元の瀬尻小学校で「鵜匠の話を聞く会」が開かれ、6年生児童が岩佐昌秋鵜匠の話に聞き入りました。岩佐さんは、風折烏帽子、腰蓑などの伝統の衣装を身にまとい、実際に使う道具を持って鵜飼の歴史や魅力、伝統の技や日ごろの苦勞について説明。伝統を守る大変さや誇りなどを語られ、児童らは改めて市の伝統文化に興味を持つ機会となりました。

キッズダンスで見事全国優勝！

1月に東京で開かれた「オールジャパンスーパーキッズダンスコンテスト2011ファイナル」の小学生部門で、見事優勝の栄冠に輝いたダンスチーム「リトル☆レジエント」に所属する洞戸小学校4年の徳野真愛さんが、市長へ喜びを報告しました。予選の中部大会で優勝してこの全国大会に臨み、躍動感あふれるダンスで全国約430チームの頂点に。毎日の練習を欠かさず、次の目標に向かう徳野さん。活躍を期待しています。



こぼれ話



高齢化が進む板取地域の集落で1月下旬、市などが募集したボランティアによる初めての雪かき作業があり、参加者約40人が高齢者宅の除雪で汗を流されました。豪雪などにより住民自身の自助・共助による地域除雪が十分に機能しない過疎集落において、街からボランティアが駆け付け、社会的な弱者である要援護者の生活基盤を確保する意味で、大変有効な取り組みだと実感しています。

さて、話は少し変わり、この自然豊かな板取地域に都

市から移り住んでいる方が何組かいらっしゃいます。移住の理由は「定年後に田舎で静かに暮らしたい」「水や空気がきれいな所で暮らしたい」「夏の暑い時期や週末に田舎で暮らすための家がほしい」などなど。田舎暮らしを希望される方には、移住前にその地域を訪れ、更には生活を体験し、地域のことをよく理解することも大切だと思います。市では空き家情報バンク制度で空き家(3月現在は無)を紹介しているほか、今後、田舎暮らし体験の事業も計画する予定です。関市の良さを知ってもらい、移住人口だけでなく交流人口の増加を進めたいと考えています。